

◆ 神田 有香音（計画策定支援室） ◆

みなさま、はじめまして。本年度から計画策定支援室に配属されました神田有香音（かんだ あかね）と申します。好きなものは生物全般、ネギ、ラーメン、フィルムカメラ、ゲーム、英語（勉強中）です。どうぞよろしく願いいたします。

私が自然に興味を持つきっかけとなったのは幼稚園でした。通っていた幼稚園の敷地内には小川と沼、山があり、小川にはアカハライモリやサワガニ、沼にはカメやザリガニが生息しており、秋になると山にはドングリやクリ、紅葉したモミジなどが地面にいっぱい落ちているようなとても自然豊かな環境でした。特に私の人生を変えたのは園長先生の存在でした。園長先生はもともと海洋生物の研究をされていた方で、自然や生物に関する知識を多く持っていらっしゃいました。園長先生は私にマムシの捕獲・ホルマリン漬けを見せてくださったり、一緒に川に入って生き物を捕まえたり、山でシイの実を拾ったりと様々な経験をさせてくれました。そのころから漠然と動物や自然関係の職業に就きたいと思うようになりました。その後、小学校から高校にかけても一貫して生き物が大好きで、飼育されている動物よりも私にとってより身近だった野生動物の研究をしたいと思い、日本大学生物資源科学部に進学しました。

大学では外来種に関する研究をメインに行ってきました。もともとは野生動物の再導入による生物多様性の回復というテーマに興味を持っていましたが、哺乳類の再導入には長い年月がかかることから現実的に厳しかったため、別の地域から導入された動物、つまり“外来種”を対象に研究を行うことにしました。また、私が所属していた研

究室は大量の自動撮影カメラを所持していることに加え、統計解析に長けている先生と先輩がいらっしゃるということから、これらの強みを活かした外来種の研究を行いたいと考えました。学部ではハクビシン、アライグマ、クリハラリスによる在来鳥類の卵への捕食圧を自動撮影カメラと統計モデルを用いて定量化しました。大学院ではよりスケールが大きい研究をしたいという思いから、研究室のメインの調査地である千葉県房総半島でニホンジカ、キョン、ニホンノウサギの密度の4年間の時間変動を状態空間RESTモデルを用いて明らかにしました。これらの研究を通じて、技術的な面だけでなく、人とのコミュニケーション、大人数で行う調査のマネジメント能力など人として大きく成長することができました。

研究活動を行う中で、自分の技術や知識を野生動物の管理や保全に活かすことができる職に就きたいと強く思うようになりました。また、様々な野生動物調査のアルバイトに参加した際に、現場で働かれている方々の仕事に対する熱量に魅了され、この業界に入ることを決めました。WMOは社員一人一人が自立していて、新しいことに積極的に挑戦する印象があります。私もその一員とし



て現状にとどまることなく、様々な分野の仕事に挑戦していきたいです。初めのうちはご迷惑をおかけしてしまうこともあるかもしれませんが、一生懸命頑張りますので、どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

◆ 松井 裕美（計画策定支援室） ◆

皆様、初めまして。今年度より計画策定支援室の事務員として入社いたしました、松井裕美と申します。

趣味は、動物園やアニマルカフェに行く事、漫画やアニメも好きで、その影響でロードバイクを購入してサイクリングを楽しんだりしています。とはいえ、体力が乏しく、あまり長距離を走れないので、現在テニス教室に通って体力作りに励んでいます。

生まれは北海道札幌ですが、小学生の頃から八王子で育ちました。幼少期より生き物や自然が好きで、昆虫、脊椎動物問わず常に何かしらの生物が家にいます。高尾山でクワガタを捕ったり近所の浅川ではドジョウを捕まえたりして飼育していました。

中央大学に進学した理由も、自然あふれる多摩キャンパスであった事と近くに多摩動物公園があった事が大きな要因でした。学部は経済学部でしたが、馬術部に所属し、ゼミでは、ウーパールーパーを使用した変態実験をし、動物に囲まれたキャンパスライフを満喫していました。残念ながら、私の代では、上手く変態はできなかつたのですが、引継ぎを行った後輩の代で実験を成功させました。実験で飼育していた時の名残もあって、別個体となりますが、現在、我が家ではウーパールーパーを10匹飼育しています。過剰な繁殖や共食いを避けるため、小分けにして飼育しているので、お世話が大変な面もありますが、かわいい彼らに癒されています。

大学卒業後は、市内のシール印刷会社にて、約13年働いておりまして、営業事務を中心に総務業

務や入金管理、ECサイト運営等の業務を行ってまいりました。やりがいのある仕事ではありましたが、2024年に年女となり、今後の人生を考えていった際に「人生一度きりなので、好きな物（動物や自然）にかかわる仕事がしたいな」と思うようになり転職を決意いたしました。そのような時にWMOの求人を見て「社名だけでもワクワクする！ロゴの頭骸骨はなんの動物だろう？」と一目ぼれのような状態で興味を持ち、募集内容も事務員との事でしたので、これまでのスキルを活かせるのではないかと思い応募いたしました。そのため、面接した日に内定のご連絡をいただいた時は本当に驚き、思わず「お返事にお時間いただけますか」と言ってしまうしました。数日冷静期間を設け、改めてWMOで働きたいという気持ちが自分の中で強い事を認識し、入社希望の旨、お返事をさせていただきました。

初めて本社に足を踏み入れた際に、トイレのマークが鹿で表示されている事や書庫に多数の資料・文献があるのを見て、社内にいるだけでも心が躍ると思うのと同時に、動物や植物好きな方が沢山いらっしゃる、お話を聞くだけで大変興味深く学びが多い素敵な職場だと感じております。畑違いな部分もあり、基本的な事も知らずご迷惑をおかけする事があるかと存じますが、皆様の現場調査や、その後の解析業務、費用清算等がスムーズに行えるよう日々の業務に邁進してまいりたいと存じますので、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒、よろしくお願いいたします。



◆ 鉄谷 龍之（本社調査事業部） ◆

今年度から本社調査事業部に配属になりました、鉄谷龍之（てつやたつゆき）と申します。昨年度までは福島県で避難地域鳥獣対策支援員（以下、福島支援員）として、5年間勤務していました。所属は変わりましたが、今後ともよろしくお願いたします。

出身は東京都の多摩地域、都心のベッドタウンである住宅地が広がっており、あまり自然と関わらなかった幼少期だったと思います。高校の進路を選ぶときに興味のあることを聞かれ、「野生動物」という答えをひねり出したときは、それを仕事にするとは考えていませんでした。

その後、野生動物を扱う研究室のある東京農業大学の付属高校に入学し、付属高校のお情けで大学に進学し、くじ引きで野生動物学研究室に入りました。

神奈川にある東京農業大学農学部に進学し、研究室に入った3年生のときは本当に知識がなく、この頃ようやく、丹沢山地にはニホンジカがいっぱいいて、いろいろな被害が出ているという話を聞きました。それに驚き、自分が身近な自然のことを何も知らないこと、そして、多くの人も知らないだろうということを知りました。

研究室の実習や先輩の調査に片っ端から参加する中で、哺乳類だけでなく、生物全般に対する興味が強くなっていきました。このあたりで、やっ

と「生き物好き」になったと思います。それと同時に、人と野生動物の関係が気になるようになりました。結果、卒論のテーマとして、ニホンジカの生態研究ではなく、ニホンジカを防ぐための広域獣害防止柵の研究を選びました。その後、修士では、アムールハリネズミの生息状況や対策についての研究を行いました。特定外来生物でありながら非常にマイナーで、学会等でも「いるの？」と言われていました。

大学院を卒業し、職を転々としながら（国立公園自然保護官事務所、国定公園ビジターセンター、県庁、市立博物館 etc.）、人と野生動物の関係を考える中で、地域という言葉が気になるようになりました。身近な自然との付き合い方を考えるとき、鳥獣被害対策を行うとき、地域というものはとても重要だと思います。そんなとき、福島支援員の募集にある「鳥獣被害対策を支援し、地域コミュニティを再構築する」という言葉を見て、応募を決めました。ここでは業務内容等について記述しませんが、現在も避難指示が解除されない場所、帰還者が少ない場所がある状況で、地域住民、市町村、県と相談しながら、対策を支援できた経験は非常に有意義だったと思います。

今年度から本社所属になりましたが、引き続き福島を中心とした業務になると思います。一方で、所属が変わることで、できることは広がるはずですので、あとは自分の能力の問題かと思います。

改めて精進しますので、よろしくお願いいたします。



背景は除染土壌等の仮仮置場

◆ 島田 駿（本社調査事業部） ◆

はじめまして。本年度から本社調査事業部に配属となりました。島田 駿と申します。よろしくお願いたします。

出身は佐賀県佐賀市（嘉瀬川や有明海の近く）で、小さい時から近くの公園で生き物を探したり、魚釣りをしたり、ペットのピレネー犬と遊んだり人と人よりも自然が多い環境で育ちました。その結果、高校生の時点で動物にかかわる仕事がしたい、特に動物園の飼育員になりたいという目標ができ、北里大学の獣医学部生物環境科学科に進学しました。

大学で動物園の飼育員実習に何度も参加していく中、長年飼育を担当してきた職員の方でも野生動物（特に猛獣）に威嚇されたり、実際にあった事故例を聞いていくうちに人と野生動物との距離感について疑問が出始めました。そして、卒業研究でニホンジカの獣害に対する担い手（県、市町村職員と猟友会員）の意識調査を行いました。農家の皆様から聞いた被害の実情や現場の視察から人と野生動物の間で起こる問題をどうにかしたいという考えに変わり、卒業後は神奈川県で鳥獣被害対策専門員を7年間、副業で愛川町のニホンザルを対象とした鳥獣監視員を6年間勤めました。

神奈川県では担当になった地域の市町村や住民の方へ講習会の講師や対策全般のアドバイスと実演を行ったほか、動物の調査、追い払い、捕獲、放獣、解体、柵設置、集落環境調査から整備も行いました。ニホンザルは神奈川県の中でも加害性の高い群れ（小田原市や湯河原町）を主に担当していました。鳥獣監視員の業務では宮ヶ瀬湖から厚木周辺の群れについて監視、追い払いを行っていました。本社の皆様とはツキノワグマの放獣、ニホンザルの首輪装着と放獣等の業務で何度かご一緒させていただきました。

行政組織であったため業務範囲は後方からの指示が多く、働いていく中でもっと前面に出て動きたいという思いが強くなり、これまでの業務経験も活かさないかと考え WMO に入社しました。特

に神奈川県のスルについてはかなり業務経験がありますので、早い段階でお役に立てればと思っております。

前職で頼もしい業者であった WMO で働けることができ光栄に思っております。経験を活かしつつ人と野生動物の問題解決に向けて貢献できるよう全力で業務に携わって参りますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



◆ 平川 亮太（本社調査事業部） ◆

初めまして。今年度、本社調査事業部に配属となりました、平川亮太と申します。これから簡単に自己紹介をさせていただきます。

出身は神奈川県横浜市（の田舎）で、高校までこの地で過ごしました。ドリトル先生シリーズや動物のお医者さん、そして齊藤慶輔先生の著書など様々なメディアに（良くも悪くも）感化され、野生動物の獣医師を目指しました。その後、紆余曲折あったものの、日本獣医生命科学大学の獣医学科に入学しました。大学在学中は3年次から野生動物学研究室に所属していました。後述する卒業研究に関する調査や、各種動物の捕獲や解剖など様々な調査に赴き、研究室ならではの貴重な経験ができました。その傍ら、獣医学生として動物病院の実習や生産動物（牛や馬など）の実習に参加し、また、アルバイトとして動物病院に勤務していました。

卒業研究では、獣医学生としては稀有な生態学的研究を行っていました。具体的には群馬県で自動撮影カメラを用いたニホンジカの生息密度推定

を行っていました。調査地であった群馬県吾妻郡嬭恋村は夏秋キャベツの一大産地です。しかし、ニホンジカなどの野生動物による農業被害が甚大になっています。対策のための情報の1つとして、そもそもどの程度の個体数が存在するのか調べるため、近年注目を集めている REST モデルを実装しました。調査の計画や実行、データ解析を自分の手で行える非常に有益な機会でした（無論、苦労も多かったが…）。

以上のように、様々な動物とそれらに関連する課題を学んできましたが、中でも魅力的だったのは野生動物に関する問題です。大学入学当初は希少種の救護に興味がありましたが、研究室ではとりわけ野生動物の管理について学ぶ機会が多く、現在も大きな課題の1つである管理が希少種にも多大なる影響を及ぼすことを知り、この分野に傾倒するようになりました。より卓越した知識と技術を得て、人と野生動物の軋轢を少しでも軽減したいという目的から、入社することを決意しました。

まだ知識も経験も少ないですが、上述の目的のために日々精進いたしますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



昨年の哺乳類学会の後、西表島にイリオモテヤマネコを探しに行きました。やっと見つけた1頭。

◆ 鳥山 哲（本社調査事業部） ◆

はじめまして。本年度から非常勤として本社調査事業部に配属されました鳥山哲と申します。よろしくお願いいたします。生まれは北海道の帯広市ですが、父の仕事の都合で計7回の引っ越しののち、千葉県八千代市に落ち着きました。小さい時から体を動かすのが好きで、中学と高校は野球部でエネルギーを発散してきました。その後一浪ののち茨城大学人文学部へと入学し、江戸時代の歴史について学んできました。入学してすぐに50ccの原付バイクを手に入れ、日本各地に出かけると親切(?)なおじさんが家に泊めてくれたり、名物の美味しいものを食べたり、自由な旅を満喫してきましたが、お金を使って旅をすることに何か物足りなさを感じていました。しかし具体的な発散方法も思いつかないまま、モヤモヤと大学生活を送っていました。ある日、研究で地元のお寺のことを調べていると、とある仏教書籍で「木喰」という、文字通り殺生を禁じ、木の実や果実のみを食べて生活するお坊さんの修行方法を見つけました。その記述を見た瞬間に感動しました。「人ってドングリだけで生きていけるんだ！」

大学を卒業して都市ガス会社に就職し、設備課に配属となり、給湯器やエアコンの設置補助などをしていました。働きながらも木喰の旅に憧れていましたが、一方で現実的に無理だろうという諦めのような気持ちもありました。果たしてドングリで必要カロリーは摂取できるのか、ドングリ以外の食べ物はどうするのかなど、また「食べられる野草図鑑」のようなものを買ったものの、ノビルとそこら辺に生えている草の何が違うのかさえも分からず、本棚で埃をかぶっているような始末でした。ある日、友達にこの中途半端な現状を話してみると、「いつまで社会の犬なんだ？鳥山なんだから飛べよ」と言われました。会社を辞めて旅に出ました。そこから沢山失敗して、妥協したところも大いにありましたが、お金を持たない、ドングリ生活、徒歩で日本一周というテーマに沿った旅ができました。



→今の顔



→旅後の顔

未経験の業界ですが社員さんのお話がどれも新鮮で面白く、今までになかった新しい世界が開きつつあるような気がします。一から勉強という形になりますが、素直で丁寧な仕事ができるよう努力していきます。何卒よろしくお願いします。

◆ 井上 莉央南（関西支社） ◆

はじめまして。本年度より関西支社に配属となった井上莉央南と申します。よろしくお願いたします。

出身は三重県志摩市（伊勢志摩）で、海と山に囲まれた環境で育ちました。家のすぐ裏が山だったので、よく庭の芝生をイノシシが掘り返しに来ていました。幼いころから田んぼや草むらで生き物を観察したり捕まえたりするのが大好きで、田舎を走り回って遊んでいました。また、両親の趣味が山登りだったため、小学生の頃は毎月どこか

の山に登っていました。駒ヶ岳などの日本アルプスの山にも4回登ったことがあります。その時は嫌々登っていましたが、今となっては本当に良い経験をさせてもらっていたなと思います。趣味は旅行です。海外は韓国・バリ島・タイ・台湾・香港に行ったことがあります。そのため、調査で様々な土地に行けることを楽しみにしています。実家では、犬、イシガメ、フクロモモンガを飼っています。カメは後ろをずっと付いてきて足元から這い上がってきますが、モモンガは成体から飼いだしたので懐いていません（それでも可愛いです）。部活はソフトボール（中学）と野球部のマネージャー（高大）をしておりました。定期的にキャッチボールがしたくなるので、相手をしてくれる方がいらっしゃれば声をかけてくださると嬉しいです。

野生動物に関わる仕事がしたいと思ったのは小学3年生の時でした。人間活動の影響で多くの動物が絶滅していつていることを知り、とても悲しくなったのがきっかけです。それから15年間、1度も気持ちが変わることはなく野生動物に関わることのできる道を模索してきました。

大学は名古屋にある名城大学農学部に入學し、そのままマスターまで進みました。研究は、二ホンリス（卒論）・アカネズミ（修論）を対象に遺伝分析を行い、都市部による生息地の分断化について調べていました。しかし、私の指導教官の先生は遺伝分析が専門外だったので、研究室には遺伝分析について教えてくれる人が誰もいないという状況でした。そのため、他学科や外部の先生に聞いて回り、試行錯誤をし、DNA分析が成功するまでに大変苦労しました。沢山失敗した分多くの知識を得られたと思います。また、大学院ではGISによる分析も行いました。アカネズミの捕獲は主に河川敷で行いましたが、大台ヶ原などの森林でも調査していました。このように野外調査・遺伝分析・GISと色々なことをやっていたので、特別この分野に詳しいというものはありませんが、多方面から問題を捉えられると思っています。

幼いころからの夢だった仕事に就けてとても嬉

しく思っております。元々希少種に興味があったので、希少種に関わる業務があれば是非参加したいです。また、地元の伊勢志摩も国立公園に指定されているので、業務に関わることができたら嬉しいです。まだ何もできない未熟者ですが、「野生動物を守りたい」という気持ちだけは自信があります。皆様の背中を追いかけて早く一人前になれるよう一生懸命頑張っておりますので、ご指導、ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。



ブイクン (♂)



タイガーキングダム (タイ)

◆ 赤松 萌鈴 (広島事業所) ◆

はじめまして、広島事業所に配属になりました赤松萌鈴 (あかまつ もえり) と申します。よろしくお願いいたします。

私は北海道札幌市に生まれ、小学校入学から高校卒業まで道東の帯広市ですごしました。小中高校と運動部に所属し (野球→ソフトボール→ハンドボール)、なによりも部活動が一番! というよう

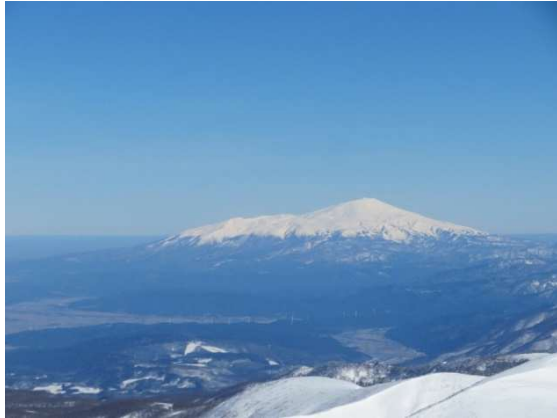
な学生生活でした。そのため、野山で遊ぶようなことは少なく、また幼少期から両親の影響で動物と関わる機会も多かったのですが偏りが大きかったため (主にシカと牛)、北海道ならではの自然環境を肌で感じる機会というのはそこまで多くなかったと感じています。

一方で幼少期から、釧路湿原での夕陽の中に佇む大量のシカたちにはじまり、高速道路上から牛の放牧と思いきやシカ、学校のグラウンドにシカ、人よりもシカが多い温泉街などなど、目にする機会が多い動物はシカであったため私にとっての野生動物=シカであり、当時はただ身近なかわいい動物という印象でした。

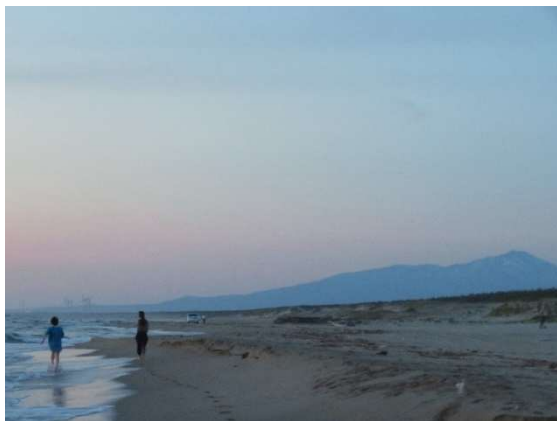
しかし、大きくなるにつれてシカによる被害があるということを知り、なんとかよりよい自然へと格闘する大人たちの姿は大変そうではありつつも、楽しそうでとてもかっこよかったことを覚えています。たびたび目にしたこのような光景が、私が野生動物管理に携わりたいと考えるきっかけであったことは間違いありません。

野生動物についての研究をしたいと考え進学した山形大学では、学部・修士ともに多雪地である福島県南会津町で冬季のシカの生息地選択や採食選択についての研究を行っていました。2~3か月に一度南会津町に滞在し、3月にスキーを使って足跡や採食痕を記録し冬芽の同定を行ったり、夏には毎木調査や下層植生衰退度調査を行っていました。また、修士ではシカに GPS 首輪を装着し、ミクロスケールでのより詳細な生息地選択についての解析も行いました。当調査地における結果としては、餌資源量や年による積雪量の違いにかかわらずシカはとにかく積雪深の浅い場所を利用すること、多雪年では寡雪年に比べ生息適地が減少し採食に占める樹皮剥ぎの割合が増加すること、気温の低下に伴いシカの活動量が減少することなどが明らかになりました。

また、大学ではワンダーフォーゲル部に所属し、新型コロナウイルスの影響により2年間だけの活



月山付近からの鳥海山



走る友人と鳥海山



夕陽と焚火

動でしたが、山形県の山や北アルプス・南アルプスでの縦走を行っていました。さらに大学の同じ科の同期にはアクティブな人が多く、春は鳥海山・月山でのバックカントリースキーや演習林で山菜取り、夏と秋には登山・溪流釣りや海で夕陽を見ながら焚火をし、冬になるとスキー場に通うなど、

さまざまな遊びに連れて行ってもらいました。同期にとっても恵まれ、キャンパスも山形県鶴岡市という海にも山にも近い環境にあったことから、自然の中で遊ぶことを知り、とても充実した学生生活を送ることができました。特に鳥海山は見るのもよし、登るのもよし、滑るのもよしとみんなのお気に入りの山なので、みなさんも機会があればぜひ！

大学生活での研究や遊びを通じて、より野生動物管理や生物多様性の保全にかかわりたいと思い、このたびWMOに入社させていただきました。獣種にとらわれず様々な業務を経験させていただきたいと思っていますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

◆ 海田 喜久枝（関西支社） ◆

初めまして。関西支社で非常勤社員となります海田喜久枝です。関西支社の海田主任研究員の妻です。私は愛媛の田舎で育ち、自然には人並みに触れて育ちましたが、野生動物に関する知識があるわけでもなく、こんな面白い仕事があるなんてことは海田に出会うまで知りませんでした。

ここ数年、作業があるときに声をかけていただいてバイトとして、画像解析やカレンダー入力、ワクチン摂食判別などをさせていただいていました。

どの作業も新鮮な体験で、楽しんでやっていますが、中でも画像解析は、獣種問わず普段見られない野生動物の動きが見られて本当に大好きな作業です。

4月からは、事務の補助もさせていただく事となりましたので、極力ご迷惑をかけないよう、少しでもお役に立てればと思っています。よろしくお願いいたします。

神戸には2016年の海田の入社に伴い移り住みました。地元の愛媛を出るのは初めてで、都会暮らしに胸を躍らせましたが、数年すると田舎が恋

しくなり、ドライブの度に、古民家の空き家を探そうになっていました。

子供が2歳になるころ、いいご縁をいただき、会社からそう遠くない田舎で茅葺屋根の古民家に引っ越すことができました。

周りは田んぼと林。10年以上放置された家の周辺ではアライグマやイノシシが頻繁に目撃されると聞き、役に立つかも！と、わな猟免許も取得しました。が、私たちの生活音（親子の叫び声）が

追い払いの役割を果たしているのか？幸か不幸か、いまだペーパー猟師です。

日常的にキジや小綬鶏を見たり、キツネがニワトリを狙いに来たり、アナグマが追いかけてっこをしていたり、そんな野趣感を楽しみながら暮らしております。

最近、数羽いるニワトリのオスの数が多すぎるので調整するために海田と鶏の捌き方を特訓中です。お詳しい方いらっしゃいましたら、ぜひご教授ください。



撮影：海田喜久枝



撮影：海田明裕



撮影：海田明裕



撮影：海田喜久枝

◆ 山崎 耕造（関西支社） ◆

みなさま、はじめまして。本年度から関西支社に配属されました、非常勤社員の山崎耕造と申します。食べることと飲むことが大好き、趣味は読書とハイキングと尺八です。どうぞよろしく願います。

私が生まれたのは、WMOの本社がある八王子です。もともと、二歳のときに茨城（いばらき）県に引っ越したため、八王子での記憶はほとんどありません。茨城では、鬼怒川、小貝川、利根川といくつもの川に囲まれる水海道市（現常総市）で育ちました。動物が好きで父の影響もあり、博物館や動物園を巡ったり、釣りやキャンプをしたりして過ごしました。また、ボーイスカウトにも所属し、様々な年代の方と野外活動をしたのも良い思い出です。

高校卒業後の進路には悩みましたが、フィールドに出て学べる大学を希望し、東京農工大学農学部地域生態システム学科に進学することとなりました。大学では探検部、狩り部、和楽器サークルに所属し、多様な価値観に接することができました。大学をストレートで卒業しないという人たちにも影響を受けてしまいましたが、人間的な幅は広がった期間だったと信じています。

また、大学内外の人々と関わるうちに、フィールド分野の中でも特に野生動物と関わる仕事がしたいと考えるようになり、二年生の時に同大学の共同獣医学科へ転学科をしました。これは、今後の野生動物の研究や保護管理分野において、一個体から多くの情報を得たり、侵襲的な調査をする中で、獣医師が貢献できる余地が大きいと考えたことによります。

卒業研究は獣医生理学教室で行い、ツキノワグマの皮脂腺について取り組みました。関東で長年行われているクマ調査に参加させていただき、血液や皮膚サンプルを採取し、解析を行いました。調査は夏の暑い時期に行われ、道具を背負って汗をだらだらと流しながら山を登るのは大変でしたが、調査後に拠点で冷たいビールを飲みながら仲

間たちと動物の話をしていた時間は、今でも思い出す幸福な時間です。

しかし、最終学年になるころに covid-19 の世界的流行が発生し、予定していた短期留学や卒論が不完全燃焼のまま大学を卒業することになってしまいました。自由に外出できない生活に嫌気がさしていた私は、卒業後すぐには定職に就かないことを決めました。まずは嫌になるほど外に出たいと考え、山小屋でのアルバイトを選びました。北アルプス立山での生活は不自由なこともありましたが、定点で高山の季節の移り変わりを観察できたことは大変貴重な経験でした。その後は学生時代に関わっていたクマの調査のお手伝いや、WMOや動物園でのアルバイトなどをして過ごしていました。また、短期間ですが千葉の動物病院で犬猫の獣医師として働いていたこともあります。

ふらふらといろいろな環境に身を置いてきた私ですが、常に頭の片隅にあったのは、野生動物と人間が大好きで、両者の関係、また野生動物を介した人間同士の関係が良好であってほしいということです。WMOの方々が持つ理念や情熱、人間性には以前から尊敬の念を抱いており、今回縁があり社員として働かせていただくことになり、大変嬉しく思っています。この先私がどんな方向に向かっていくのか、自分でもまだわかりませんが、まずは目の前のことに全力で取り組みたいと思っています。未熟な身ではありますが、皆様のお役に立てるよう精進していきますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。